



新型コロナウイルス 感染症と歯科

鎌倉歯科医師会 原 宣道



**正確な情報の
入手と冷静な
判断が大切**

未だ出口の見えない
コロナ禍において、現代
社会では様々なメディア
を通じ、日々大量の情
報が溢れています。玉石
混交のそれらを日々見
聞きしたうえで、正確
な情報を得ることは大
変難しいことです。し
かし、この未知の感染
症を「正しく恐れる」
ために、私たち自身に
も冷静な判断力が求め
られているといえま
しょう。

**必要な治療が
おろそかに
ならないように**

4月初旬、緊急事態
宣言発令後に一部メ
ディアから「歯科医院
は感染のリスクが高
い」「今は歯科を受診
するのは控えるべき
だ」といった報道がな
されました。また、
同じ頃に歯の痛みのため
に来院された患者さん
から「こんな時に来て

しまつて申し訳ない」
「コロナの感染が怖い
ので応急処置だけにし
てほしい」等の言葉を
聞き、私は愕然としま
した。自粛ムードの中、
不要不急の判断は最終
的には御自身で行う
ことですが、漠然とし
た不安感や恐怖心だ
けで必要な治療が疎
かになることはあって
はなりません。

歯科医院の 感染症予防対策

歯科医院における感
染症予防対策はスタン
ダードプリコーション
(標準的予防策)に従い、
厳密に実施されていま
す。スタンダードプリ
コーションとは「感染症
の有無にこだわらず、す
べての人の血液や分泌
物等を『感染しているも
の』として取り扱い、そ
れらを介して拡散する
病原体から医療従事者
と患者さんへの感染を
防ぐこと」という概念で
す。歯科医院において
は手指衛生をはじめ、

使用器械の滅菌消毒、
個人防護具使用(マス
ク、グローブ、フェイス
シールド等)といった対
策を従前より、むしろ
「ごく当たり前のこと」
として実施しています。
コロナ禍以降ではさら
なる感染予防対策とし
て、患者さんの配置(予
約時間の調整)、診療室
内の適切な換気、診療
室以外の区域の消毒等
を考慮し、できる限り
の感染予防策を講じて
います。これらの全てを
もってしても未知のウ
イルス感染リスクをゼロ
にすることはできない
かもしれませんが、現
時点でのベストエフォ
ート(最善の努力)である
と考えます。結果、令
和2年10月初旬現在、全
国の歯科医院において
患者さんを含むクラ
スターが発生した事例
の報告はありません。

感染症予防に 有用性の高い 口腔ケア

最近の知見では口腔
ケアが新型コロナウ

イルスによる肺炎の重症
化予防に寄与するとい
う報告があります。ウ
イルス性の肺炎には3
パターンあり、1つ目
はウイルス単独による
肺炎、2つ目はウイル
スと細菌の混合肺炎、
3つ目はウイルス性肺
炎が緩解したのちに二
次的に細菌性肺炎に移
行するということです。
インフルエンザウイル
スの場合は2番目が多
いのですが、新型コロナ
ウイルスでは3番目の
パターンが多いという
データがあります。以
前より口腔ケアは細菌
性の誤嚥性肺炎に対し
有効な予防策として知
られています。不顕性
感染者が多い新型コロナ
ウイルスでは、誰し
もが感染しているとい
う前提のもと行動する
べきです。「Withコ
ロナ」の今だからこそ、
これからの新しい生活
様式・習慣に口腔ケア
を積極的に取り入れ
るべきだと私は考えて
います。

(原歯科医院)